

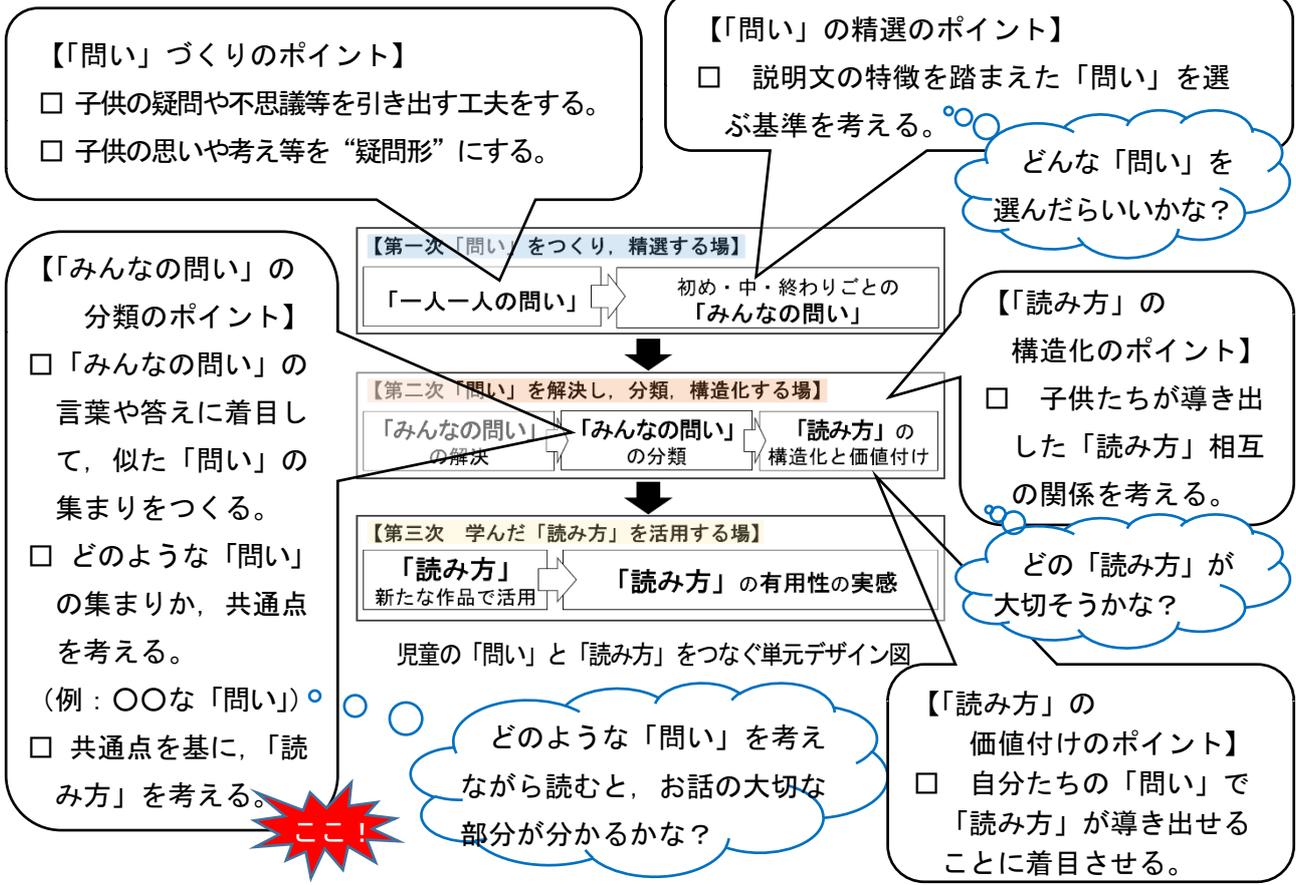
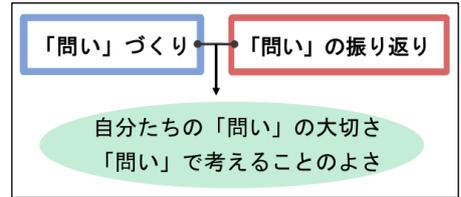
発展性があり探究的な学びにつながる課題設定の工夫

## 児童の「問い」と「読み方」をつなぐ単元デザインの工夫

主体的・対話的で深い学びの実現のために、子供たちの「問い」で構成する授業が増えてきました。一方で、「問い」をつくったものの、その後どう展開すればよいのか、正直悩むところです。ここでは、「読むこと」、特に説明的文章の学習において、「問い」をつくり、精選、解決し、そこから「読み方」を導き出したり、子供たちの「問い」を価値付けたりすることで、子供たちが「問い」で「読み方」を考えるよさを実感しながら、「読み方」を習得、活用できる単元デザインのポイントを紹介します。

**ポイント!** “「問い」に答える、学習を超えて” “「問い」で考える、学習へ

子供たちは、与えられた「問い」を考えたり、教科書の「問い」に答えたりすることに慣れてはいても、自ら問うことには慣れていません。そこで、子供たちが問うことに慣れ、自ら「問い」をつくるができるようにします。ここでは、教材文と向き合っ「問い」をつかって答えることが、それに当たります。これだけでも、子供たちの自発的で主体的な学習に近付きます。しかし、ここではさらに一步踏み込んで、子供たちの「問い」を精選したり、振り返ったりする、「問い」で考える学習を設定することで、「問い」の大切さや価値、「問い」で考えるよさを実感できるようにします。



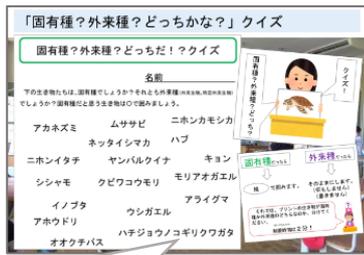
### 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善のポイント

- 子供たちが考えた「問い」と「選ぶ条件」とを照らし合わせながら、「問い」を精選することで、子供たちが学習課題となる「問い」を自分事として捉えられるようにします。
- 導き出した「読み方」と「問い」のつながりを振り返り、価値付けることで、「読み方」の有用性や、「問い」で「読み方」を考えるよさを子供たちが実感できるようにします。

授業改善の工夫	発展性があり探究的な学びにつながる課題設定の工夫
---------	--------------------------

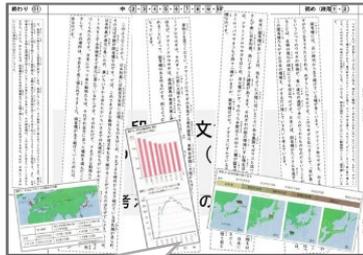
	国語科学習指導案	第5学年
単元名	「問い」で考えた「読み方」を使って～『固有種が教えてくれること』～	
単元のねらい	児童自ら「問い」をつくり、それらを精選、解決し、さらに分類、構造化することで、「読み方」を導き出し、他作品で活用することができる。	
単元の流れ	<p>〈第一次〉</p> <p>① 教材文に関する「一人一人の問い」をつくる。※資料1・2（1／7）</p> <p>② 「一人一人の問い」を整理し、学習課題「みんなの問い」を決める。 ※資料3（2／7）</p> <p>☆ 〈第二次〉に入る前に家庭学習等で「みんなの問い」の自力解決に取り組みさせてもよい。</p> <p>〈第二次〉</p> <p>③④ 「みんなの問い」の答え、根拠や理由を交流する。（3・4／7）</p> <p>☆ 学級の実態や「みんなの問い」の数によって、集団による解決や交流の時間確保は柔軟に設定する。また、『統計資料の読み方』について触れることも可。</p> <p>⑤ 解決した「みんなの問い」を分類して、説明文の「読み方」を考える。 ※資料4・5本時（5／7）</p> <p>【事例有】</p> <p>⑥ 関係やつながりを考えて構造化した「読み方」を使って、再度教材文を読み、要旨をまとめる。（6／7）</p> <p>〈第三次〉</p> <p>⑦ 「読み方」を使って他作品を読んで要旨をまとめ、「読み方」を価値付ける。（7／7）</p>	
準備物	模造紙・付箋紙（共同編集共有アプリ・文章作成アプリ）	

資料1 クイズ



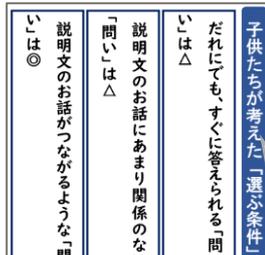
「一人一人の問い」につながる疑問や不思議を掘り起こす。

資料2 組立て活動



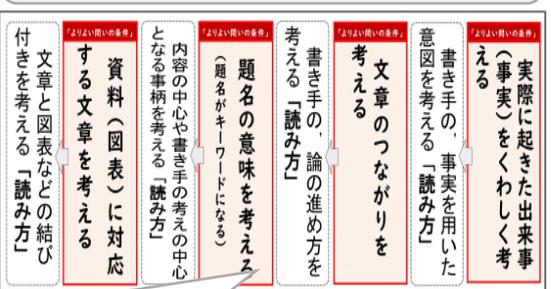
教材の内容と形式両面の「一人一人の問い」につなげる。

資料3 「選ぶ条件」



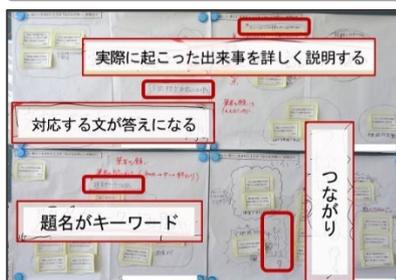
作品理解や「読み方」につながる学習課題「みんなの問い」を精選できるように、児童に精選する基準を考えさせ、それを基に精選する。

資料5 「読み方」となる「よりよい問いの条件」



構造化してさらに活用しやすくする。

資料4 「問い」の分類

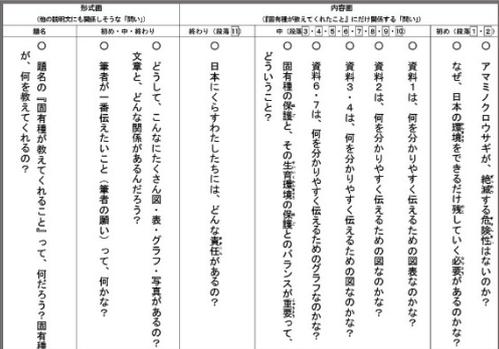
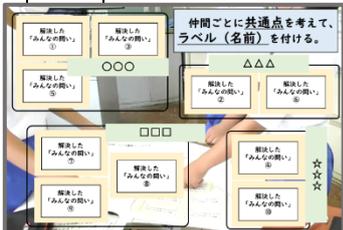
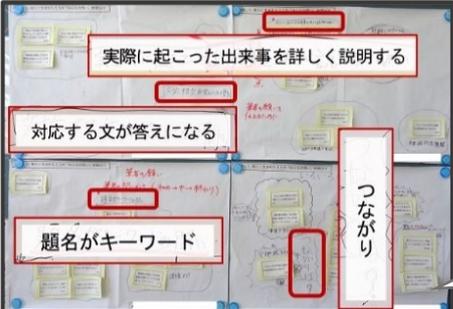


「問い」の言葉や答えに着目して、仲間分けをする。共通点を考え、集まりごとにラベルを付ける。これらを基に、どんな「問い」を考えて読んだらよいかを考え、「読み方」となる「よりよい問いの条件」を導き出す。

本時のねらい (第5時)

解決した「みんなの問い」を分類して特徴を考えることで、説明文の「読み方」となる「よりよい問いの条件」を導き出すことができる。

学習過程

段階	学習活動	時間	○指導上の留意点等 ◆評価
導入	<p>1 解決済みの「みんなの問い」を振り返る。</p> <p><b>㊦ みんなは、どんな「問い」を解決してきたのかな？</b></p> <p>2 解決済みの「みんなの問い」を分類する。</p> 	5	<p>○ どんな「みんなの問い」を解決してきたか把握できるようにするために、自分にとって一番大切だと思う「問い」を近くの友達と共有させる。</p> <p>○ 解決済みの「みんなの問い」を分類できるようにするために、「問い」と「答え」の関係等に注目させ、似た特徴を感じる「問い」をグルーピングさせる。</p>  <p>どんな「問い」が集まっていると言えるかな？</p>
展開	<p>3 分類した「問い」の集まりごとにラベル(名前)を付ける。</p> 	10	<p>○ 説明文の「読み方」となる「よりよい問いの条件」をつくることできるように、分類された「問い」の集まりから共通する特徴を考えて、ラベル(名前)を付けさせる。</p> <p>説明文を読むとき、どんな「問い」を考えながら読んだらいいのかな？ (説明文をよりよく読むための着眼点)</p>
まとめ	<p>4 説明文の「読み方」となる「よりよい問いの条件」をまとめる。</p> 	10	<p>○ 「よりよい問いの条件」を導き出すことできるようにするために、グループの模造紙上の分類の仕方やラベル(名前)に着目し、共有し、どのような「問い」を考えながら読めばよいか考えさせる。</p> <p>◆ 「みんなの問い」から「よりよい問いの条件」を考える中で、よりよい「読み方」を考えようとしている。(思・判・表)</p>
め	<p>5 「よりよい問いの条件」につながった「みんなの問い」のよさを考える。</p> <p>「よりよい問いの条件」は、何が基になっているかな？</p> <p>6 本時の学習を振り返る。</p> <p>特にどの「条件」が使えるかな？</p>	5	<p>○ 「問い」で「読み方」を考えるよさを実感できるようにするために、「よりよい問いの条件」と「みんなの問い」や「一人一人の問い」とのつながりを振り返らせる。</p> <p>○ 教材文の特徴に合った「読み方」に気付かせるために、一番大切そうな「よりよい問いの条件」を選び、選んだ理由を交流させる。</p>